



聖マリア学院同窓会会報

Vol. 29

編集発行人／聖マリア学院同窓会 発行所／〒830-8558 久留米市津福本町422番地 印刷／小野高速印刷株式会社

発行：令和5年9月吉日



学校法人聖マリア学院 同窓会会長
樋口由美子（看護学科2科11回生）

いあいさつ

山滴るさわやかな季節となりました。同窓生の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃より同窓会活動へのご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。新型コロナウイルスに関する発表が厚生労働省のリリースに初めて登場したのは2020年1月6日のことでした。新型コロナウイルスの拡大



学校法人聖マリア学院理事長／聖マリア学院大学学長
井手 三郎

50年の時の流れ

春にはモンシロ蝶が舞う菜の花お花畑。夏場には一面田んぼであり、病院とは用水路（今も試験場前のセブンイレブンから病院を通り学院まで流れています）で隔たれていた。私が小学生の頃の風景です。昭和48年、その場所に聖マリア高等看護学院の校舎竣工。既に、（助）九州産業衛生協会が隣地で活動していましたので、聖マリア3番目の兄弟でした。病院設立20年目にして独自の看護師養成を始めた訳です。地元医師の先生方からは、「井手さん（創設者井手一郎先生）は、何を好き好んで民間病院が看護婦養成を始めるとの声もあったそうだ。高度成長期には民間病院には珍しかったICU等を整備し、正面に大きな十字架を掲げた本館が完成した。更に増大する高度な医療需要に対応すべく、昭和51年に看護専門学校3年制併設。これで校舎は短大規模並みになりました。でも体育館はなくピロ

ティが体育の場所でした。ネー尽力された歴代校長先生は赤星先生（大北先生）中川洋先生。昭和57年学校法人聖マリア学院として独立。初めての年度末決算は赤字ストレスの記憶がある。短大設置準備の責任を負うべしと若くして理事を拝命していました。若造には酷でしたが、理事会では老人保健法対応他の必要性から保健師と助産師の養成設置準備も決定。短大設置を目前にして、無理でしょうと悩む間もなく、重要な課題の追加！初めての建築（3号館）、設置認可申請業務。開設後は医学統計学等の講義も担当することにもなりました。昭和61年、短期大学設置。開学までの2年間は激務の連続。月8回の文部省通いも。膨大な申請資料を前に部長とたった二人で格闘。何度泊まり込みをやったろうか。長男は余り風呂に入れた憶えがない。大学創れば人1人死ぬと言われた規制緩和

度5月、感染症法上の5類感染症に位置づけると決定しました。しかし課題も多く、今後の動向に注意が必要です。新型コロナウイルス感染症が終息し、平穏な生活に戻れる日々を願いつつ、皆様にお会い出来る事を願っています。聖マリア学院は1973年に開学。建学の精神である「カトリックの愛の精神」に基づく篤実有能な人材を育成し、今年で創立50周年を迎えました。全国、そして世界でご活躍されている聖マリア学院の卒業生皆さまのご健康とますますのご発展をお祈り申し上げます。

前の時代。内緒だけど過労でAMI発しCCU入り。でも開学出来ました！九州では珍しい私学の看護短大。優秀な学生（皆さん！）が入学してくれた。同年、福岡より雪の聖母聖堂が移築されて患者様や職員さんの心の拠り所となる。短大充実し、5号館、体育館も設置。この時期に医療福祉専門学校・介護福祉学科の開設・閉鎖があり、人としての大切さを学び、それは次の大学設置の際の骨格ともなった。平成18年大学開学、同22年大学院設置。万全を期して臨む。6号館竣工。理事長としての初仕事でした。設置後の久留米市補助金に涙。短大時代の市への支援要請が功を奏した。7号館、図書館棟竣工。図書館は学生の評判よく嬉しい。書籍を愛した井手一郎先生も喜んでいらっしゃる。暫しの間、理事長・学長・教授として本学の教育現場に目を光らしています。病院は70周年です。私も今年古希を迎えます。誕生は修道院の廃材を使った木造2階建ての聖マリア病院初代本館2階です。聖マリアのNONI Babyです。70年・50年の光の流れが私の眼に焼き付いています。



神に感謝
—看護教育50周年を迎えて
学校法人聖マリア学院 学院長
井手 信

1973年、聖マリア病院の創設者井手一郎先生のご計画のもとに聖マリア高等看護学院が開設されました。当時は日本の高度経済成長期と言われ、社会の急速な発展は社会のあらゆるところにひずみを生じ、医療の分野における疾病構造の変化も著明でした。この様な時期にカトリックの愛の精神に基づく質の高い看護者の養成を目指して、全人的な看護教育が開始されたのです。井手一郎先生の授業では医療・看護のみならず、社会情勢に関する膨大な資料が配布されていたことを思い出す方もおられるでしょう。1986年には短期大学が開学しました。看護大学が全国にわずか11校しかなかった時代です。当時すでに聖マリア病院で働いていた私にも聖マリア学院短期大学への出向命令が下りました。高等教育機関として生命倫理、ロイ適応看護モデル、国際看護等の特色を持つより視野の広い看護教育が行われました。しかし、短期大学教育の20年間の間には必ずしも順風満帆ではない時期もありました。近隣の看護大学設置が相次ぐ中の最大の危機は2004年1月に創設者の井手一郎先生、7月に第2代理事長の井手道雄先生が相次いで亡くな



聖マリア学院の創始者の
思いに思いを寄せる
聖マリア学院看護学部・看護学科 学部長・教授
日高 艶子

聖マリア学院の始まりは昭和48年4月1日に医療法人雪の聖母会聖マリア病院附属の高等看護学院として開設された聖マリア高等看護学院にあります。その後、聖マリア学院は、聖マリア看護専門学校、聖マリア学院短期大学、聖マリア学院大学と発展してきました。今年、学院が50周年を迎えるにあたり、50周年の記念誌の準備を進めています。記念誌作成の過程で、聖マリア病院と聖マリア学院の創始者である井手一郎先生や井手道雄先生の聖マリア学院への思いを先生方の寄稿文から再確認しているところです。ご存じのように聖マリア学院の建学の精神は

学院の始まりから一貫して変わることなくカトリックの愛の精神に基づく教育です。これは、聖マリア学院がこの地にあり続ける限りにおいて、引き継がれていくことでしょう。井手一郎先生は、1986年に開学した聖マリア学院短期大学の教育の特色について「科学的な看護を行うことのできる看護婦（士）の養成、カトリックの愛の精神に基づく看護、すなわち、看護にたずさわる者自身が先ず、人間として在立するため原理を探求・理解し、それに従って、患者の癒しを方向づけ、援助するという看護婦の養成をめざす。」と記されています。聖

られたことでした。前年の理事会で大学設置が決定された直後のことで、残された教職員一丸となり大学開設に向けて準備を重ね、2年後の2006年大学へ移行することが出来ました。この度、聖マリア病院70周年、聖マリア学院50周年記念事業として2022年11月にバチカン直轄バンビノージェス小児病院との交流関係を締結し、早速、生命倫理関連研修会開催、カンボジアにおける国際支援の準備を開始し、次の50年に向けての一步を踏み出しました。建学の精神であるカトリックの愛の精神、本学の教育の特色である生命倫理、ロイモデル、国際看護は実践してこそ意味があります。卒業生の皆様のご活躍に期待します。トビックスです！2024年3月から西鉄試験場前の駅名が聖マリア病院前になります。

マリア学院で行われる教育への熱い思いと意思が伝わってきます。聖マリア学院大学の2022年度から開始された新カリキュラムも建学の精神であるカトリックの愛の精神を基盤に一人ひとりの学生の人格と看護実践者としての成熟を目指しています。これは、まさに井手一郎先生が掲げられた教育の特色を引き継いだものと言えるでしょう。生命の尊重、人間の尊厳を尊重した地域におけるケアの文化を創造する人材育成のためのカリキュラムです。私も今、聖マリア学院で教育・研究に携わらせて頂いていることに感謝し、創設者井手一郎先生からのメッセージである暖かい開かれた心を持ち、常に地域の人々と共に協働・連帯して互いを支え合い、他者へ向かう愛の実践者となることのできる「マリアナース」の育成に専心致します。

聖マリア学院 開校50周年

1973年

聖マリア病院を母体として
「聖マリア高等看護学院」を開設
看護教育を開始して、以来50年



▲ 昭和48年 聖マリア高等看護学院

1953年



▲ 昭和28年 聖マリア病院 開設当時



▲ 第1回 入学式の様子

敬虔なカトリック信徒であった
井手一郎先生が
「聖マリア病院」を開設
地域のため、特に支援を
必要とする人々のため
24時間、365日、
断らない医療を掲げて、
以来70年



初代理事長 井手一郎 先生

聡かい、用かれた
心を持った
人になろう下さい
井手一郎

同窓生の近況報告

平田 正子 (2科1回生)



聖マリア高等看護学院が昭和48年4月1日開設されました。今年50周年を迎える事が出来、感謝と共に祝い申し上げます。卒業生の皆さん免許取得し、各現場でご活躍の事だと思います。私は聖マリア病院勤務年数52年になります。現在は臨床の場から離れ、チャプレン室配属で病院の基本理念に基づき、特に癌で苦しむ患者訪問を行っています。

稲又 智子 (1科7回生)



聖マリア看護専門学校での学生生活は、1年間の辛く苦しかった聖マリア病院での看護実習や北海道への修学旅行、阿蘇への宿泊研修、市内バレーボール大会など思い出がたくさんあります。私たちが1科7回生は、みんな仲良く団結力があり素晴らしいクラスでした。卒業後の今も旅行に行ったり、女子会を定期的に行い楽しんでます。聖マリア看護専門学校の友達は、私の宝です。(現在 広川病院 看護部長)

中ノ森美知子 (2科5回生)



開校50周年おめでとうございます。看護専門学校2科5回生卒業生です。

患者訪問行方事で色々な事を考えさせられ学ぶ事が出来ました。患者さんの発言を一つ一つ大事に受け止めベットのサイドケアを目指し続けて行きます。皆様のご健康とご活躍を心から祈り申し上げます。

伊藤 葉子 (短大4回生)



卒業して早いもので30年が経ちました。平成17年度までは聖マリア病院で勤務しておりました。現在、久留米市保健所 健康推進課 難病チームに勤務しております。

瀬戸口陽子 (短大4回生)



目まぐるしい毎日を送っております。母子保健では聖マリア病院で、かつての同級生と連携をとりながら、共に仕事ができることが嬉しく、心強く思っています。学生時代に学んだこと、聖マリア病院での看護師、保健師の経験があるからこそ、今、元気にやりがいをもって保健師活動ができていますと感謝しています。

佐藤 春美 (短大15回生)



学院を卒業し、助産学科に進み聖マリア病院へ就職。27年近く産科病棟にて勤務しました。一緒に就職した同級生が多く、友人が多く楽しかったことも、長く続いた理由の一つです。現在は、聖母3階のナสบ病棟にて勤務しております。日々勉強の毎日です。

私は渋谷日赤の脳外科後援スパー周産期で勤務。現在沖縄で子育て兼



SMC

本学の校章は、聖マリア病院の
 徽章と同じデザインで、
 創立者の井手一郎先生によるものです。
 聖体を2本の百合で象ったもので、
 聖体旗は、ミゼリコルディアの
 旗である「聖体旗」の聖体です。



※ … 同窓会名簿での確認数

海外で働くマリアなひと

全ての原点は聖マリアから

カンボジア料理教室／カンボジアノゴハン主宰

前原とよみ(短大8回生)

私は今、世界遺産アンコール・ワットで有名なカンボジアはシエムリアップで暮らしています。カンボジアに関わりはじめて22年、在住歴は16年になりました。

「海外で働きたい」と看護師を志したのは30年前。今、私がこうして海外で活動しているのは、看護学生時代、そして職員として過ごした「聖マリア」の存在がとても大きいです。

2021年からは聖マリア病院が取り組んでいる介護人材育成の海外事業にも関わっています。聖マリア病院在職中の夢は海外事業部で働くことだったので、こんな形で夢が叶うとは：聖マリア病院との不思議なご縁を感じています。

私は聖マリア学院で看護を学びました。あの頃はまだ短期大学でした。NANDAの看護診断を本場米国で学んできた先生から教えていただいたことは、非常に良い経験でした。問題を可視化して診断、プランを立てて実践し、評価するというプロセスは、看護の問題に限らず、カンボジアでさまざまな問題に直面した時にも常に役に立っています。先生がよく話してくださっていた米国の看護師の地位や看護師の行う業務の選択肢の広さについては、今の私のライフスタイルの原点になっています。

(St.Mary's Times Vol.03 からの転載)



カンボジアノゴハンのことはコチラから



現在の前原とよみ



夏休み中です。聖マリアで知った言葉「歩み寄るものに安らぎを去り行く者に微笑みを」。これが私の原点であり目標です。人生一度きりそろそろ助産師再始動です。



吉村 一輝 (大学10回生)

5年前に聖マリア学院大学を卒業してICUに勤務しています。重症な患者さんの看護に携わって命の尊さを感じています。日々の学びを次の看護に活かし、初心を忘れずに頑張っています。



柿原 朱里 (大学12回生)

50周年おめでとうございます。私は4月より聖マリア病院の産科病棟で助産師として働いています。周産期母子医療センターということもあり、合併症のある妊婦さんや

早産で産まれる赤ちゃんも多くいます。急な搬送で入院するケースも多く、お母さんと赤ちゃん、そして家族のケアも大切になってきます。まだまだ難しいことも多く、うまくいかず悔しい思いをすることもありますが、師長や主任、プリセプターをはじめとする先輩方、同期と支え合いながらたくさん学びと経験をすることが出来ています。聖マリア学院大学で学んだカトリックの精神を大事にしなからこれからは頑張りたいです。



末継 拓郎 (大学15回生)



現在は久留米大学病院に勤めています。腎臓内科、消化器、救命センターを経験し、様々な分野の勉強をすることができました。これからもより看護の高みを目指してがんばっていきます。

寺崎 裕 (介護11回生)



聖マリア介護福祉士専門学校として卒業し、聖母の家に16年勤務しています。高齢者の在宅復帰のために頑張っています。介護の11回生は20名近く聖マリア病院に入社しています。これからも良き仲間と切磋琢磨し介護福祉士として頑張っていきたいです。

第46回 聖マリア学院同窓会 総会（書面開催）

同窓会総会は、令和元年より2年毎の開催となりました。しかし水害に続き、新型コロナウイルス感染症の拡大により対面での総会は開催できませんでした。今年こそはと、同窓生の皆様には、心待ちにして頂いた方も多いことと思ひます。しかし、第8波と長期化し、今年度も感染拡大防止のため、やむなく中止と決断させていただきました。本来ならば、総会の会場において報告すべきところですが、今年度も会報の書面上での提示となりましたこと、皆様のご理解の程をお願い致します。本誌面掲載の審議事項1〜2について、ご意見・ご質問がある場合は、聖マリア学院ホームページの同窓会事務局へご連絡頂きますようお願い致します。尚令和5年10月末日までに、特段のご連絡が無き場合は、本件をご了承頂いたものとさせていただきます。

報告事項

令和4年度活動報告

- 4月 入学式（生花、祝電を謹呈）
5月 評議員会出席（同窓会代表の出席）
10月 召命のつどい（従前の祝帽式）
同窓会費振り込み用紙送付（在学生対象の事前納付手続）
12月 評議員会出席（同窓会代表の出席）
3月 卒業式（生花、祝電を謹呈）
評議員会出席（同窓会代表の出席）

令和4年度決算報告別表1

審議事項

議案1 令和5年度活動計画

- 4月 入学式（生花、祝電を謹呈）
5月 評議員会出席（同窓会代表の出席）
7月 同窓会会報発行（50周年記念号）
役員交代、役員引継ぎ召命のつどい（従前の祝帽式。生花を謹呈）
同窓会費振り込み用紙送付（在学生対象の事前納付手続）
12月 評議員会出席（同窓会代表の出席）
3月 卒業式（生花、祝電を謹呈）
評議員会出席（同窓会代表の出席）

議案2 令和5年度予算別表2

* Facebook投稿

創立50周年記念事業 募金へのお願い

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。皆様方におかれましては、平素より、聖マリア学院の運営、発展のために深いご理解と多大なご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。さて、聖マリア学院は令和5年に50周年、母体である聖マリア病院は今年で70周年の節目を迎えます。同窓会としても、周年記念事業へ協賛させていただきたく存じます。皆様からのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。お振込み方法については同封の振込用紙をご確認ください。*各種Payも利用可能です。 聖マリア学院同窓会

同窓会新役員

- 令和5年度
会長 神代 明美（1科10）
副会長 上岡 和代（短大8 地域8）
古賀 由紀（短大4 助産4）
梅野 知恵（短大14）
会計・書記 大鶴 真琴（大学10）
藤木 麻衣（短大18）
古賀 恵美（短大15）
櫻井 涼太（大学6）
千住 祐介（介護9）
出版 森高 智子（大学11）
中川 梓（大学11）
事務局 石井 和弘（聖マリア学院事務局長）

令和4年度決算【別表1】

Table with financial data for FY2022 (2022年4月1日～2023年3月31日). Columns: 前年度繰越, 総収入金額, 総支出金額, 次年度繰越.

収入内訳

Table with income breakdown for FY2022. Columns: 項目, 予算, 決算, 増減, 備考.

支出内訳

Table with expense breakdown for FY2022. Columns: 項目, 予算, 決算, 増減, 備考.

監査報告 会計監査の結果、金銭出納帳・領収書綴りに間違いありません。

令和5年3月31日 監査人 待鳥 祐子 戸塚 幹子

令和5年度予算【別表2】

Table with financial data for FY2023 (2023年4月1日～2024年3月31日). Columns: 前年度繰越, 総収入金額, 総支出金額, 次年度繰越.

収入内訳

Table with income breakdown for FY2023. Columns: 項目, 前年度決算, 予算, 増減, 備考.

支出内訳

Table with expense breakdown for FY2023. Columns: 項目, 前年度決算, 予算, 増減, 備考.

ご住所やお名前(姓)のご変更の際は こちらへ一報お願いいたします。

名簿管理委託先

小野高速印刷株式会社 同窓会支援事業部

TEL 0120-58-3002 (フリーダイヤル)

096-382-1177 (代表)

熊本市中央区上水前寺1-12-12

事務局より

朝顔が色鮮やかな花を咲かせる季節になりました。同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。私たちの母校、聖マリア学院は、今年50年目を迎えました。今年も聖マリア学院同窓会報（第29号）をお届けすることができましたことを大変うれしく思います。記念すべき50年にて、今回は各回期生から選出させていただき、各方面でご活躍されている方々よりメッセージを掲載させて頂きました。未だ新型コロナウイルスの影響にて総会を開催することはできませんでしたので同窓生の活躍を励みにして頂ければと思います。新型コロナウイルスも、今年5月より5類の位置づけとなります。今後、私たちの日常生活も、本格的に「共生」という形になり、総会が開催される日を待ち遠しく思います。最後に、「聖マリア同窓会」Facebookを運用しております。不定期での更新ではございますが、見て頂けますと幸いです。

★個人情報について

聖マリア学院同窓会では、個人情報保護法を遵守し、個人情報同窓会活動、母校の振興と発展に寄与すること以外には一切使用しません。